



2/26

けやきの家利用者用送迎車を贈呈いただきました



けやきの家利用者用送迎車をご寄贈いただきました。車体には、けやきの家利用者の衣斐綾さんの椿、熊田智也さんの桜の絵が描かれ、「はな」と名付けられました。寄贈者は「垂井町で、生まれ育った亡き両親の垂井町への報恩の心を伝えにきました。この車両で楽しんで通所していただければ」と話され、早野町長は「心のこもった素晴らしい車両をご寄贈いただき、大変感謝しております。大切に活用させていただきます」と述べました。

2/22

早野町長に“まちづくり”を提言



不破中学校2年生の生徒らが、まちづくりや地域活性化に関わる意識を高めるため、総合的な学習の時間を通して、まちの子育てや観光、福祉などさまざまな視点から提言をまとめ、早野町長に報告しました。生徒たちは「相川の桜はライトアップすることでさらに町内外から人を呼び込める」など堂々と提言し、早野町長は「若い人たちの意見を大切に、実現できることはぜひ検討したい」と生徒たちを称えました。

3/1

ひな祭り会をしたよ



◀ ひな人形の衣装を着る園児たち(岩手こども園)

町内各こども園で行われたひな祭り会。岩手こども園では、ひな祭りにまつわるクイズやひな祭りの歌を歌いました。園児たちは、先生から出されるクイズに元気よく答え、ひな人形の前でおともだちと声をそろえて歌う姿が見られました。会の最後には、自分で作ったひな人形の衣装を着て写真を撮ってもらうなど、日本の伝統を楽しみました。

2/29

町まちづくり審議会を開催



住民活動団体や議会、まちづくり協議会などの代表から構成するまちづくり審議会。町まちづくりセンターが協働のまちづくりを推進するために行ってきた事業などの審議を行いました。委員のみなさんからは、町まちづくりセンターの事業のあり方をはじめ、これからの協働のまちづくりなどについて多くの意見が出されました。出された意見は、今後のまちづくりに役立てていきます。

3/1 本のセルフ貸出しがスタート



◀セルフ貸出を行う利用者

タルイピアセンターで本の“セルフ貸出”ができるようになりました。これからは、窓口カウンターだけでなく、ご自身で貸出手続きを行うことができます。バーコードリーダーに、図書館の利用者カードや本のバーコードをかざし、借りたい本を全て読み取ったら貸出完了のボタンをタッチ。出てきたレシートを受け取って完了です。便利になった図書館を、ぜひご利用ください。

3/1 災害時応援協定を締結



◀浅野常務取締役(中央)、安田西濃事業所長(右)

大規模な災害が発生した場合に、町が実施する災害応急対策に協力し、町民の生命を守ることを目的として、株式会社イノアックコーポレーション西濃事業所と災害時における防災活動協力に関する協定を締結しました。浅野常務取締役は「住環境の部材などを取り扱っているため、災害時にはやれることをすべて協力したい」と話され、早野町長は「今回は防災の協定を締結させていただいた。これを契機に、さまざまな関わりを深めていきたい」と述べました。

3/18 帰りの時間の呼びかけを中学生が担当します



◀録音を行う清水さん

自動音声で流れていた午後6時の帰る時間を呼びかける屋外放送(10月～3月は午後5時)を、4月から不破中学校2年の清水麻衣さんに担当してもらいます。清水さんは「毎日流れる放送なので、みなさんの耳にしっかりと届くように呼びかけたい」と意気込んで録音に臨みました。4月から、清水さんの心のこもった呼びかけをぜひ聞いてください。

3/2 各学級・講座参加者が1年を締めくくる



生き生きライフ推進大会(兼各学級・講座合同閉講式)を文化会館で開催し、242人が参加しました。記念講演では、岐阜協立大学看護学部教授の棚橋千弥子さんと専任講師の上尾善隆さんが「地震(災害)への備えと、避難所生活で心と身体を守るために」と題して、日頃から災害へ備えることの重要性や避難所生活で自身の心と身体を守るためにできることを話され、講座を締めくくりました。